

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスまはる宜野湾伊佐		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 12日 ～ 令和7年 4月 5日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 12日 ～ 令和7年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い療育スペースと区分した環境作りがあり、児童に対して分かりやすい可視化した掲示物がある。	・児童が分かりやすく線を引いて環境の認識が出来る工夫 ・事業所内のスペースでどこでなにをするのか？を考えさせる為に常に児童側が決定出来る関わりや促しを行っている。 ・掲示物によりコミュニケーションでは補えない部分を視覚情報からも出来る様に工夫している。	・より細かい部分では低学年から高学年に合った環境作りを行い、成長段階に沿ってスペース作りや思考力へのアプローチを提供していきたい。 ・可視化した物とプラスして聴覚からの情報をより細かく行う事で社会に沿って場面によって行動できる様に工夫していきたい。
2	専門的支援の実施や経験豊富な職員が配置している	・スポーツや専門的視点を多く取り入れながら、児童の状況を把握して上半身下半身、身体的機能の向上を考えた上で取り組んでいます。 ・心理士によるケアも行いながら、一人ひとり気になる子がいれば個別対応もその都度行える環境を提供しています。	・色々な視点を取り入れながら様々なスポーツ競技や微細運動から粗大運動まで幅広く行ってきたい。
3	児童同士が休日でも関わりが持てたり、利用希望の増加の声もあつたりと支援の質やより沿った環境提供が出来る	・休日の過ごし方を保護者様と共有したり仲の良い児童同士と一緒に過ごせる環境を作りながら関係性構築する手助けを支援として行っています。 ・休みの日での過ごし方も共有する事で習慣化や生活リズムの把握も行い本人から保護者まで一緒に児童支援へ検討する事を意識しています。	・家庭内での支援や電子機器による支援への相談援助として課題があるのでそこは保護者様へ伝える事が出来る様に取り組んでいきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域移行の選択肢や地域交流の場が少ない	・高学年に関しては自社による高学年特化した事業所の紹介や地域にある事業所への見学などを提案していきます。 ・高学年によっては受験など学力面でのニーズもあるのでそこは環境を提供していきながら本人の今後の移行に向けては相談支援とも共有して移行支援へ繋がっていきます。	・地域事業所との連携や、相談支援との共有そして保護者様との移行に対する意見や情報交換できる環境を多く作っていききたいと思います。
2	建物の老朽化による環境作り	・事業所としては、清掃を行いながら危険性がないかの確認を行い修正出来る箇所はその都度取り組んでいます。 ・会社と共有しながら早急な対応を行うように周知しています。 ・児童支援に関しては支援の妨げにならないように日頃から環境設定への意識を行っている	・早急に修正したり、危険性が高い部分から取り組む ・支援に影響がないように日々の環境設定や清掃を怠らない様に改めて職員全員で徹底して整えていきます。
3	研修の周知や保護者様との交友する機会が少ない	・保護者様への周知に関して改めて徹底している現状が低い部分も見られるのでそこは無くしていきます。 ・研修を行っているが、周知徹底に関しての意欲がまだまだ低くそこは改善としています。	・早急に保護者会とした機会を提供して、まずは相互作用による有意義に過ごせる環境を提供します。 ・保護者からのお声を聞きながらも、寄り添った支援内容を提供出来る様に改めて検討していきます。